

論文審査の要旨

報告番号	修 第	311 号	氏 名	安 田 耕 平
論文審査担当者	主査 宮 川 哲 夫			
	副査 富 田 真 佐 子			
	副査 鈴 木 久 義			
(論文審査の要旨)				
<p>「ADL 維持向上等体制加算と病院経営ー加算点数の実態調査と分析ー」について、2014 年に急性期病棟における療法士の病棟専従配置に対して、日常生活活動（Activities of Daily Living：以下 ADL）維持向上等体制加算が新設されたが、届出医療機関は 4.9%にとどまり、普及しているとは言い難い。ADL 維持向上等体制加算の病院経営への影響を明らかにすることを目的に、算定施設での実態調査と分析を行い比較検討した。</p> <p>対象は、2015 年 12 月から 2016 年 11 月までの 1 年間に、ADL 維持向上等体制加算の対象として病棟専従理学療法士を配置した病棟（専従病棟）1,558 例と、後に病棟専従理学療法士の配置を検討しているシミュレーション病棟（SIM 病棟）1,140 例であった。</p> <p>その結果は以下のとおりである。専従病棟と SIM 病棟でそれぞれ、入院延べ日数、12,996 日と 12,076 日。15 日以上の入院日数、2,084 日と 2,842 日、疾患別リハビリテーション日数、1,356 日と 595 日、病棟専従理学療法士非勤務日数、1,772 日と 1,926 が算出された。加算日数は、7,784 日と 6,713 日が算出され、加算単独の年間点数は 622,720 点と 537,040 点。疾患別リハビリテーションの合計点数は、135,080 点と 72,860 点。ADL 維持向上等体制加算と疾患別リハビリテーション総合計点数は、専従病棟 757,800 点、SIM 病棟 609,900 点で、専従病棟が 147,900 点多かった。ADL 維持向上等体制加算に準ずる病棟専従理学療法士の配置は、早期リハビリテーションの促進と予防リハビリテーションの提供とチーム医療の強化によって、同等程度の入院延べ日数から、専従病棟で ADL 維持向上等体制加算とリハビリテーション関連の取得点数の合計が、年間約 15 万点多く得られた。ADL 維持向上等体制加算に準ずる病棟専従理学療法士の配置は、リハビリテーション関連点数の増加や診療の質の向上が期待でき、専従理学療法士の人数や非勤務日数、リハビリテーションの運用が同様な病院では、経済的に優位な点が認められる。</p> <p>過去の報告では、本論文のような詳細な検討はなされていない。また、研究目的、方法及び得られた結果の分析も明確に示されており、先行研究に関する検討も適切に行われている。今後の臨床に応用できる可能性は非常に高いものと思われる。したがって、本論文は修士（保健医療学）の学位に相当するものであると判定する。</p>				